

開催ブロック	東海・北陸ブロック
日時	2023年12月17日 一部10:30~12:30、二部13:00~16:00
趣旨・目的	一部『レクリエーション実践者から学ぶ領域別レクの活用法』では、教育や保育、福祉、スポーツといった専門領域で職業としてレクを活用している達人を講師として迎え、実技を通して「実践知」を共有し、関連授業を展開する上での有益な情報を得ることを目的とした。二部では『認定校の魅力の一つにできる！地域協会との連携事業』と題し、「実践的に学生が育つ魅力あるカリキュラムとは」をテーマに基礎理論の修得と地域協会との連携による演習など一連の養成過程における現状と課題を共有し、新たな課程認定校の魅力づくりのヒントを模索することを目的とした。
会場	岐阜協立大学北方キャンパス 2号館、2201 教室および第二体育館
スケジュール	10:30~12:15 一部：実技『レクの専門知識技能の活用』 ① 「子ども（幼児・児童・生徒）」を対象としたレクリエーション実技 ② 「高齢者」を対象としたレクリエーション実技 13:00~16:00 二部：演習 演習『課程認定校と地域協会との連携』
参加者数	一部：34名（内訳：教員9名、学生25名）、二部（内訳：教員10名）
内容紹介	1.ニュースポーツ体験 受付後は開講式までニュースポーツ体験(ボッチャ、ふらばーる、タスポニー、フライングディスク)。学生と教員が一緒に体験する。 2.一部：実技『レクの専門知識技能の活用』(課程認定校学生と教員が参加) 開講式後、アイスブレイクとして「ミナモ体操(脳トレバージョン)」と「3拍子手合わせ」を実施した。 (1)「子ども(幼児・児童・生徒)」を対象としたレクリエーション実技 北村講師(大垣市レク協会)から風船を用いた運動遊びの紹介があり、参加者全員で実践した。立位と座位でのパス交換を比較して、座位では安定し、安全確保に優れていると紹介された。また、風船に新聞紙を巻き付けることでドリブルやバウンドパスが可能になり、発展的な指導展開法の実技演習がされた。一つの遊びに多段階的な工夫を加えることで“アレンジ”ができ、ハードル設定が多段階になり、保育・教育現場での活動を豊かに発展できる、と実践的教示がされた。 (2)「高齢者」を対象としたレクリエーション実技では、丹羽講師(大垣市レク協会)から高齢者福祉施設で実践している活動の紹介があり、利用者様の体調に合わせたハードル設定と活動内容のアレンジ方法が教示された。まず、座位での簡単な体操があり、その目的などが説明され、次いで「りんごの唄」の指導がされ、なぜこの選曲なのかが説明され、その曲に合う活動の身体的効用などが教示され、参加者全員で実践した。また、プログラム展開上の具体的要点が教示された。

	<p>3.演習『課程認定校と地域協会との連携』: 田口講師(中津川市レク協会)から中京学院大学との連携事例の『「レ」ク+「ア」ス事業』の具体的内容が紹介され、その中で「大学はもっと学生の潜在的能力に期待しても良いのでは」、との指摘があった。</p> <p>また、本年度の岐阜協立大学と大垣レク協会との連携活動をポスターにまとめ掲示した。今後の参考になる有益な意見交換ができた。</p>
<p>所感</p>	<p>実技では、学生・教員ともに「多くの学びがあった」との感想が得られた。研修のねらいとした現場でのアレンジに気づけた学生が多くあり、本研修の一つの成果となった。今回はブロック研修会に学生を参加できるようにした。3つの養成校から25名の参加があり、貴重な交流の機会となった。演習では課程認定校と地域協会との連携が新たな認定校の魅力づくりになる可能性が見出された。講師の田口中津川レク協会理事長の「学生は機会さえあれば、主体的に考え、行動する。ホスピタリティに満ちた態度で参加者とも接することができる。したがって、養成校は学生に機会を提供して学生自身による成長に期待してもよいのでは」という指摘には参加教員の全てが納得させられた。多くの教員は、レクリエーションが専門でなく地域協会と連携しての事業参加に消極的であり、今後の姿勢(考え方)について考えさせられる研修となった。</p>



